

## 修養会を覚えての全校礼拝④

(中学3年生による礼拝)

聖書箇所: 箴言4:23

“何を守るよりも、自分の心を守れ。そこに命の源がある。”

### 「女学生の笑顔」

私は今年の夏、「ひめゆり」というミュージカルを観劇しました。皆さんもきっと、ひめゆりという名前を聞いたことがあるのではないのでしょうか？ひめゆりとは太平洋戦争中に沖縄で兵隊達の看護活動を行っていた私達と同じ10代の少女たちのことです。この作品では戦争の恐ろしさや苦しみ、少女達の夢や願いと共に人生を一生懸命に生きていく姿が描かれています。私はこの作品を見る前、戦時中の女学生たちは大変でつらい毎日で今の私たちが行っている日常は無く、夢を見ることや楽しい時間は一瞬もないと勝手ながら思っていました。でも、実際は美味しいものの話をしたり将来の夢を語り合ったり、恋バナでキャーキャー言い合う私達とかわらない日常を送る女学生たちでした。ただ、戦争が激しさを増す中で、どんどん日常が無くなっていき本来の学校に通う年数を短縮して、看護師として戦場にはいかなるようになりました。あっという間に私達とは全く違う日々、立場、現場に彼女たちは立たされてしまいました。しかし、彼女たちは怖いという思いを持ちながらも兵士たちと向き合いながら毎日を一生懸命に生き、看護にあたっていました。

もし私が今、家族と離れ離れになって日常がなくなり、毎日のように血の流れる場に行ったら、すぐに逃げ出したいと思ってしまうと思います。

みなさんも、少しでもいいんです考えてみてください。もし自分の目の前で友達や先生、人が亡くなっていく姿を見た時どう思いますか？何度も言いますが彼女たちは私達とほとんど同じ年齢で当たり前のように学校に通っていたのです。私は今まで、戦争やひめゆりって凄く大変だったんだな、としか正直考えていなかったと思います。ですが、この

作品を鑑賞し、自分と同じような年齢の少女たちがなんの罪もないのに殺され、兵士たちはボロボロになってもまた戦場に向かい、なんの罪もない人々が信じられない数、殺される。そんなことが実際にあったのかと恐ろしさを超え、もう何も考えたくなくなってしまうほどに心に刻まれました。でも私達は考えなくてはなりません。

捜真生は高校2年生になると修学旅行でひめゆりについて学ぶと聞いています。私もその時がきたら、ただ戦争はだめということではなくて、私たちと同じ女学生がそのとき何を考え、感じて過ごしていたのかということに思いを馳せることも必要だと私は思いました。ひめゆりの少女たちと年齢が近いからこそ、私達が考えられることがあると思います。それができれば、世界中で戦争に巻き込まれ、苦しい思いをしている人たちのことを思い、何ができるかを、本当の意味で考えることができるのではないかと感じます。修養会でのメッセージを受け取るなどして。「今」を大切にすること、未来に希望を持ち続けること、そして自分たちに出来るなにかを考え続け、実行することが大切と感じました。

「ひめゆり」の少女たちの思いを心に刻み、平和を祈ります。

(中学3年生による全校礼拝より)